

水戸市立五軒小学校いじめ防止基本方針



令和 6 年 4 月

水戸市立五軒小学校

水戸市立五軒小学校いじめ防止基本方針

水戸市立五軒小学校

1 はじめに

いじめは、決して許される行為ではない。しかし、いじめはどの児童にも起こり得るものであることを踏まえ、学校、家庭、地域が一体となって未然防止を図るとともに、いじめ又はその兆候を早期に発見し、迅速かつ適切に対処することができるように取り組む必要がある。

いじめ問題は、校長のリーダーシップのもと、学校全体で組織的に進めていく必要があり、そのためには、全教職員が、児童が発しているサインを見逃すことがないように、「もしかしたら自分の学校や学級でもいじめが起きているかもしれない」という危機感をもって常に児童に接すること、教員相互の情報交換を行い、いじめ撲滅に向け努力しなければならない。

また、いじめは児童生徒等の尊厳を害するとともに、犯罪その他重大な人権侵害となり得る行為を含むものであり、決してしてはならないものである。そのため、児童自身がそのことを認識できるよう、その情操と道徳心を養い、規範意識及び自尊心を育む必要がある。

このことを念頭に置き、本校では、いじめ防止対策推進法（平成25年9月28日施行）第13条の規定及び国のいじめ防止等のための基本的な方針に基づき、いじめ防止等のための対策に関する基本的な方針を策定する。

2 いじめの定義

いじめとは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条第1項）

3 いじめ防止等のための施策

（1）組織の設置

別表1

- ① 校長、教頭、教務主任、生徒指導主事を中心とした水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会を設置し、定期的な会議を実施、いじめの未然防止に努める。いじめが確認された場合は、校長の指示を受け、児童からの個別の聞き取りなどを実施し、早急に対応し、重大事件とならないよう対処する。万が一重大事態が発生した際には、地域の方をメンバーに加えた緊急水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会を立ち上げ、その対応にあたる。
- ② 生徒指導主事及び教育相談担当を中心とした教育相談体制の充実を図り、重大事態とならないような体制を構築する。

（2）いじめの未然防止に向けた取組

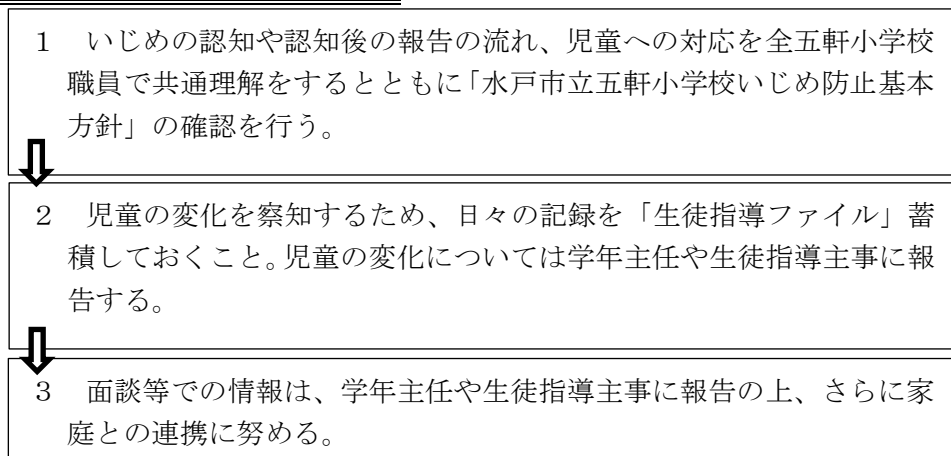
- ① 児童と接する機会を多くもち、話を聞き、思いを理解しながら、児童のよさや個性を伸ばす努力をすると共に、日々の道徳の授業を大切に行い、知性に富み、心身ともに健全な風格を備えた人間（水戸人）の形成を目指す。
- ② 児童に学校生活の秩序を保つことの意義を理解させるとともに、コミュニケーション能力、社会性や自尊感情、達成感、自己有用感の育成のために、所属感のある学級づくりを工夫する。また、問題行動の指導に当たっては、焦らず、あきらめず、侮らず、見逃さずを常に意識し、きめ細やかに愛情をもって指導する。また、けんかやふざけ合いであって

も、そのけんかやふざけ合いが確認できた場合は、調査を行い、児童の感じる被害性に着目し、いじめか否かを判断する。

- ③ 水戸市いじめ解決推進事業「ふれあいプラン」を推奨し、自校化を図るための検討会を実施する。
- ④ 人権教室、携帯電話やインターネットを通じて行われるネットいじめを防止するための情報モラル教育の充実、落ち葉はき等のボランティア活動等を行うことで、思いやりの心やいたわり合いの心を育て、一人ひとりの人権を尊重する意識を養う。
- ⑤ 児童が主体的にルール作り等を行い、いじめの防止に努める。
 - ア 集会委員会を中心としたあいさつ運動を行い、望ましい人間関係の構築に努める。
 - イ 集会委員会を中心に「いじめ解決フォーラム」を行い、いじめ解決スローガン「やさしいひとみ」実現に向けて、望ましい集団作りに努める。
- ⑥ 保護者会等で学校での取り組みを説明し、保護者や地域の方々の理解をもらい、協力していじめ防止に努める。また、学校だよりやホームページ等を活用し、広く地域社会にいじめ防止の取り組みを理解していただく。

特に発達障害を含む障害のある児童、海外から帰国した児童や外国人の児童、性同一性障害や性的指向、性自認に係る児童、震災や原子力事故等で被災・避難した児童については、特性を踏まえた日常的な支援とともに、周囲の児童への指導を行い、保護者への電話連絡や家庭訪問、連絡帳を通して連携を密にする。
- ⑦ 教職員、児童、保護者等により、いじめに関する学校評価を実施し、「五軒小学校いじめ防止基本方針」に基づく学校の取組の実施状況を評価項目に位置付け、分析し、今後の指導の改善に活かす。

日々のいじめ防止に向けての流れ



(3) いじめの早期発見に向けた取組

- ① 学期2回以上の生活アンケートを行い、いじめの早期発見に努める。
- ② 生徒指導主事が中心となり、校内オンライン相談窓口を開設し、1人1台端末のアンケート機能を活用し、児童が気軽に相談できる環境を作る。
- ③ 保護者と連携するとともに、児童の小さな変化が見つけられるように、細かく様子を見ていく。
- ④ 養護教諭やスクールカウンセラーを活用し、いつでも安心して相談できる体制を整備する。

(4) いじめに対する措置(いじめ発生時)

別表 2

① いじめられた児童への対応

- ア 生活アンケートや児童・保護者からの相談、オンライン相談窓口を等から、いじめと確認された場合は、校長の指示を受け、水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会を中心に、児童から個別の聞き取り等を実施し、早急に対応し、重大事態とならないよう対処する。
- イ 人権に配慮しながら事実関係を的確に確認し、親身な指導、悩みを受け止め支える指導を実践するとともに、指導の記録をきちんととる。
- ウ 保護者に対して、事実について説明するとともに、今後二度と起こらないような体制について説明し、理解を得る努力をする。
- エ いじめられた児童を守るため、全教職員に事実について報告し、全教職員でサポートチームを構築し必要に応じ送り迎え等を実施し、解決に向けた支援を行う。
- オ 養護教諭やスクールカウンセラー及び医師と連携し、メンタルヘルス・ケア等を行い、自身の存在感をもたせる場の提供を行う。
- カ 緊急避難として欠席した場合は、学習を保障するためのプログラムを作成する。
- キ 家庭訪問の実施等を行い、児童に安心感をもたせる。
- ク 教育委員会に事実関係を報告する。

② いじめた児童への対応

- ア 事実確認を行い、いじめは許さないという毅然とした指導及び、継続的に指導をし、相手の思いや自己の行為を考えさせ、二度といじめを起こさない環境を構築する。
- イ いじめに至った原因や背景を確認し、立ち直りの支援を行う。
- ウ 家庭に連絡し、指導経過の報告をするとともに、家庭での様子を確認し、今後の指導に活かす。
- エ 犯罪行為については、「児童生徒の健全育成に関する警察と学校の連絡制度」を活用し、警察と連携して対応する。

③ 学校としての取り組み

- ア いじめがあった事実を真摯に受け止め、学級環境等の改善策を協議し、豊かな人間関係を育むための指導方法の改善を図る。
- イ 学級指導の見直しや授業改善を図りながら児童が充実した学校生活を送れるよう環境の改善を図る。
- ウ 学校公開を通して、保護者や地域と課題を共有し、地域ネットワークを活用しながらいじめのない学校にする。

(5) いじめに対する措置(重大事態発生時)

別表 3

① 重大事態とは

- ア 生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い
 - ・ 児童が自殺を企図した場合
 - ・ 児童が身体に重大な傷害を負った場合
 - ・ 児童が金品等に重大な被害を被った場合
 - ・ 児童に精神性の疾患が発症した場合
- イ いじめにより相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑い
 - ・ 年間 30 日を目安とする。
 - ・ 一定期間連続して欠席しているような場合

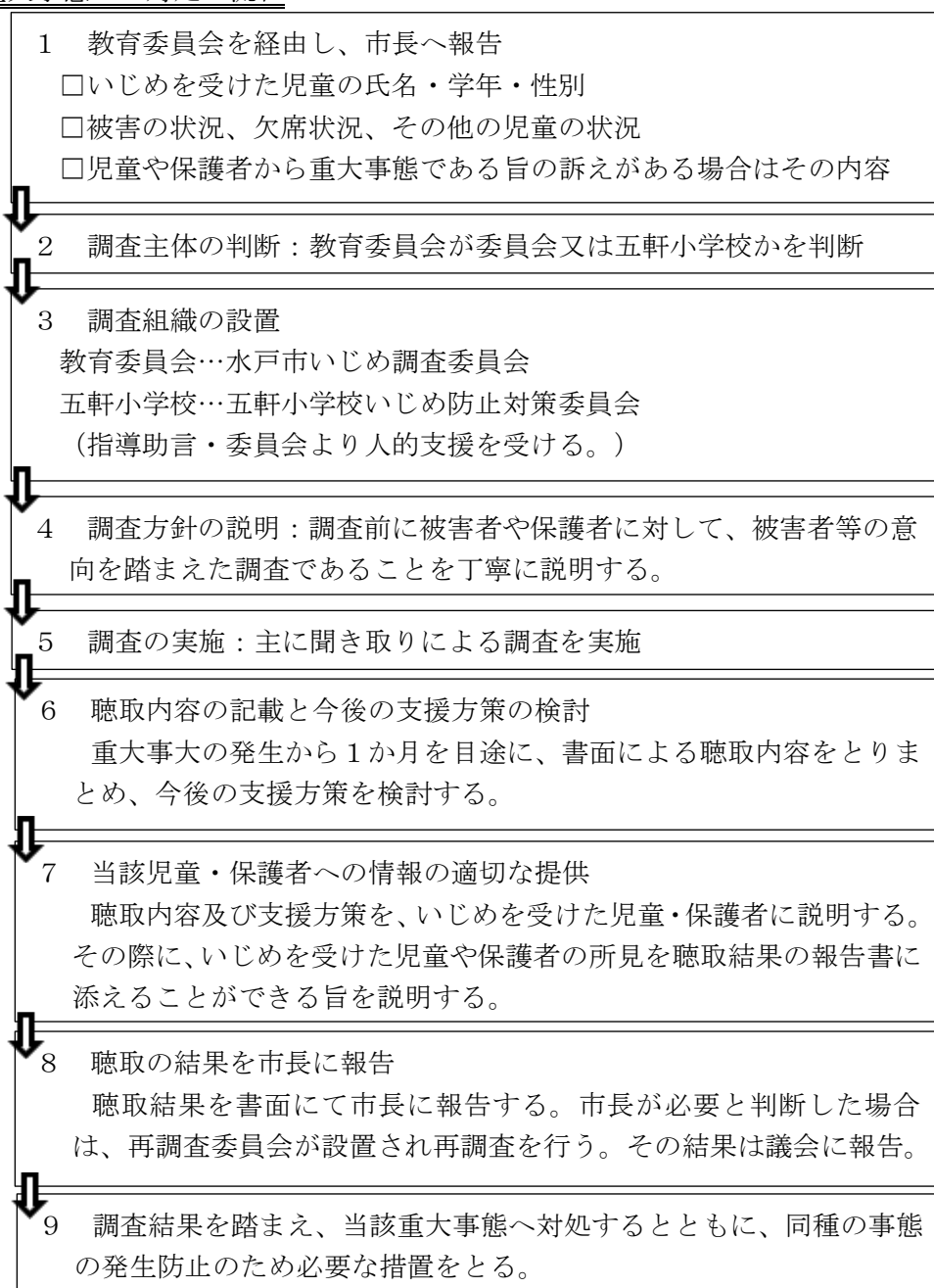
② 学校の取り組み

- ア 重大事態が発生した際は、教育委員会へ迅速に報告し、教育委員会を通じ、市長へ報告する。
- イ 速やかに緊急水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会を設け、事実関係を明確にするための調査を実施する。
- ウ いじめを受けた児童及び保護者に対し、調査結果の情報を適切に提供する。
- エ 調査した結果について、市長に報告する。

③ 重大事態の取扱いについて

事実関係が確定した段階で重大事態として対応を開始するのではなく、重大事態の「疑い」が生じた段階で調査を開始する。被害者児童や保護者から申し立てがあった場合は重大事態が発生したものとして報告・調査する。

重大事態への対処の流れ



(6) いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携

児童の命や安全を守ることを最優先に考え、犯罪行為（触法行為を含む。）として扱われるべきいじめなどは、直ちに警察に相談・通報を行い、適切な援助を求めることが重要である。

① 犯罪に相当する事案を含むいじめ対応における警察との連携の徹底

ア 学校と警察は、児童の健全な育成の観点から重要なパートナーであることを認識し、日常的に情報共有や相談を行うことができる連携体制の構築が求められる。

イ 児童ポルノ関連のいじめ事案に関しては、一刻を争う事態も生じることから、被害の拡大を防ぐため、学校は、直ちに警察に相談・通報を行い、連携して対応する。

ウ 重大ないじめ事案やいじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認める事案について警察へ相談・通報を行い、学校として適切な対応を行う。

② 警察との日常的な情報共有体制の構築による連携強化

生徒指導主事を窓口として、休日等執務時間以外の時間帯における連絡体制の構築にも留意する。

③ 保護者と学校がともにいじめ防止対策を共有するための普及啓発の推進

いじめが犯罪行為に相当し得ると認められる場合には、警察への相談・通報を行うことについて、あらかじめ保護者等に対して周知を行う。

(7) いじめの解消について

① 「いじめの解消」の定義

加害者に指導したり加害者が被害者に謝罪したりしたことでいじめが解消するのではなく、次のア、イの両方の条件が満たされた場合いじめが解消したと判断する。

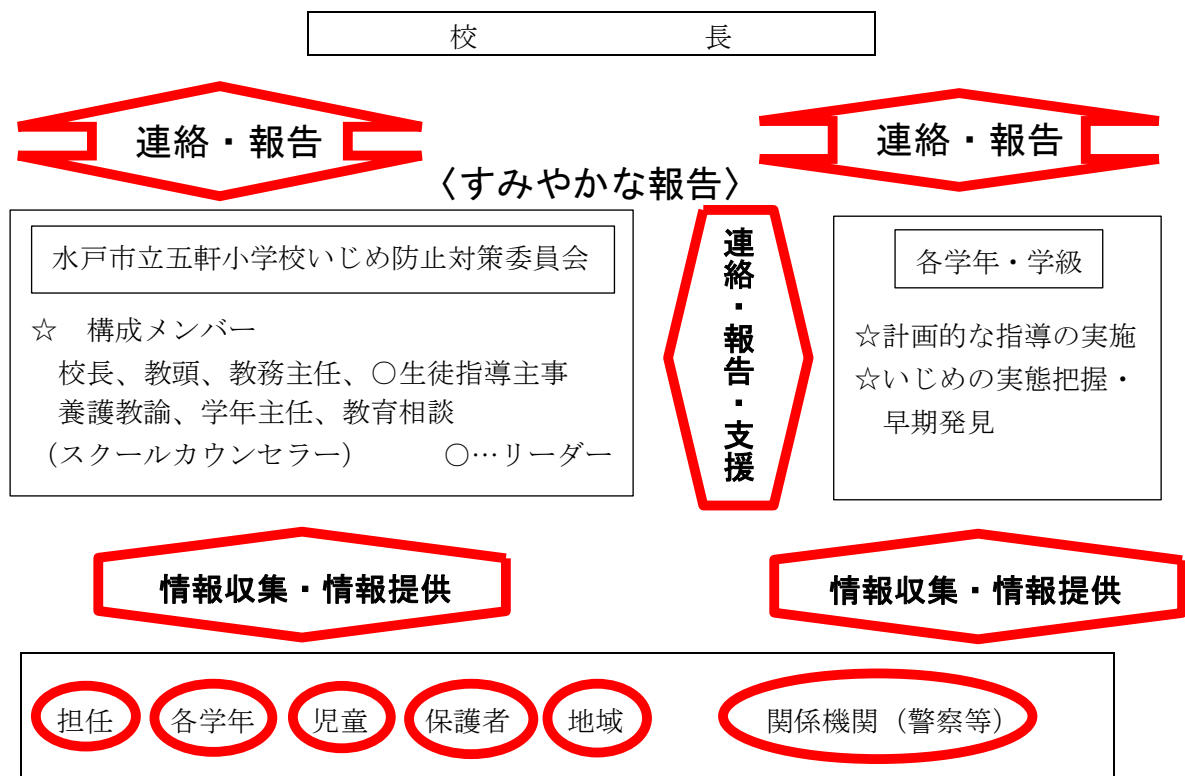
ア いじめに係る行為が止んでいること

被害者に対する心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）が止んでいる状態が少なくとも3か月継続していること。ただし、さらに長期の期間が必要であると、学校の設置者又は学校が判断した場合はより長期の期間を設定する。

イ 被害児童が心身の苦痛を感じていないこと

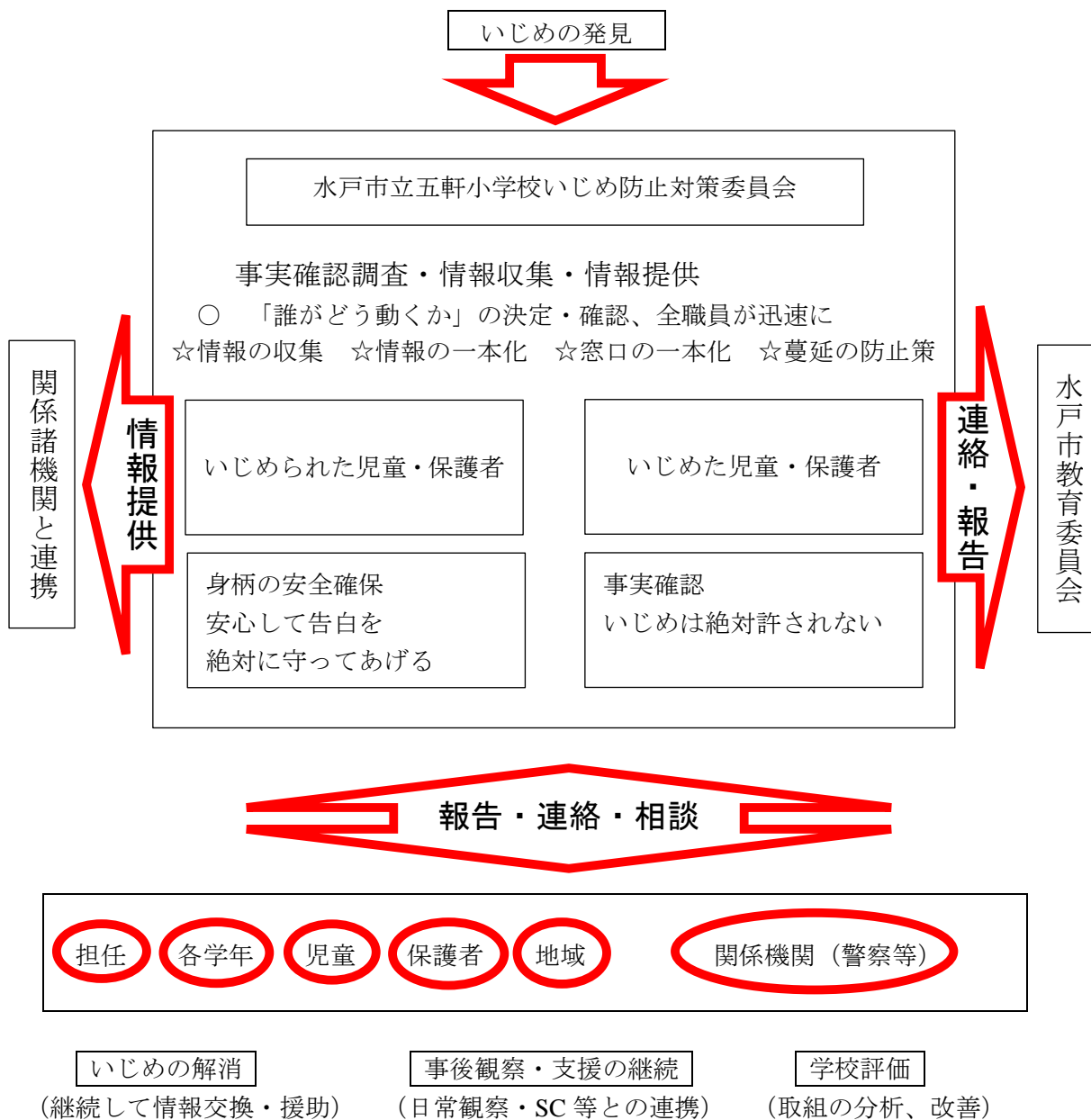
いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点で、被害児童がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。確認方法は被害者児童及び保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうか面談等を行う。

別表1 いじめ防止体制（平常時）

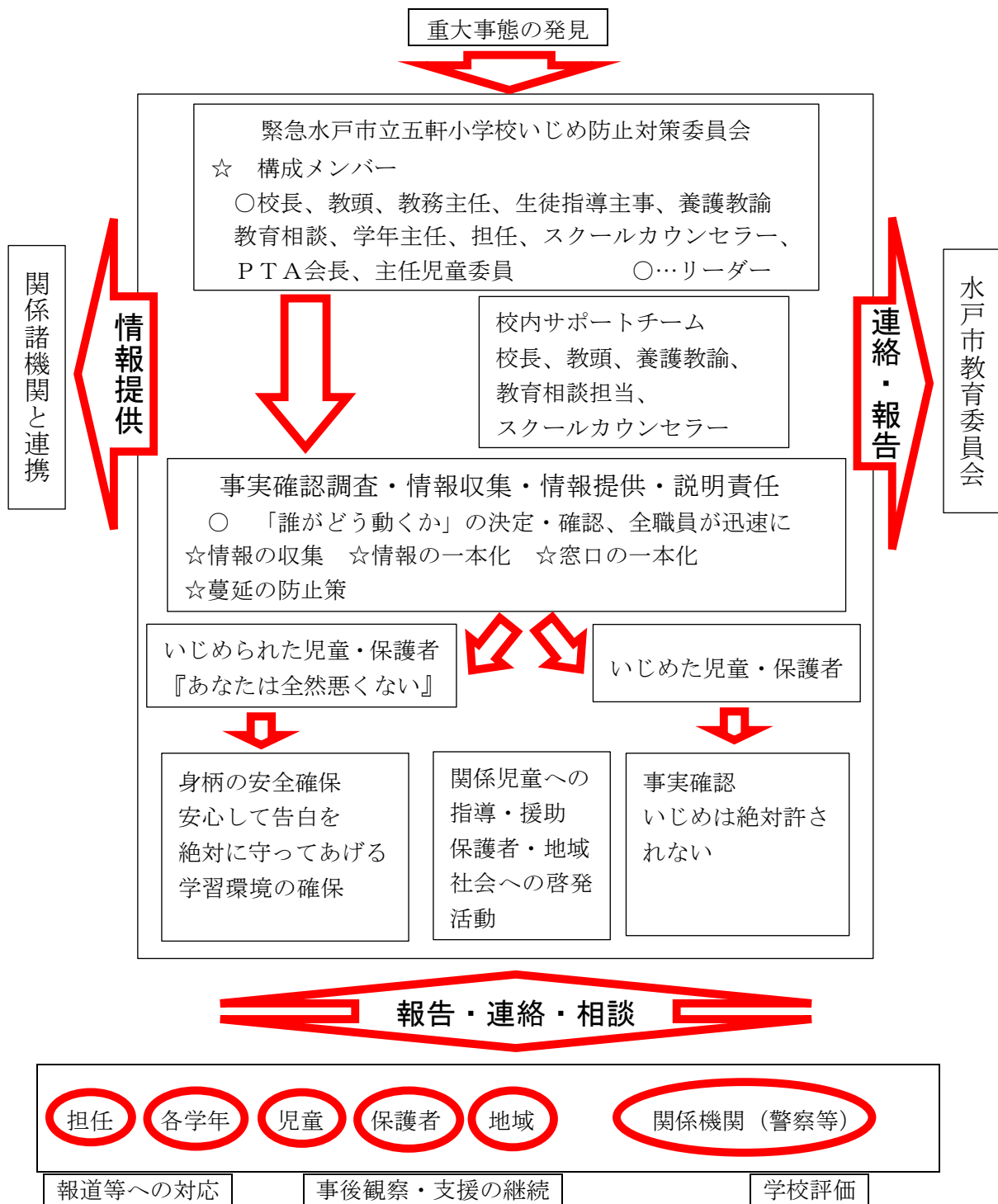


※ 「水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会」を組織し、いじめ防止のための年間指導計画を学校全体で組織する。また、同委員会が保護者や関係諸機関の窓口となり、日頃から協力体制を構築しておく。

別表 2 いじめ防止体制（いじめ発生時）



別表 3 いじめ防止体制（重大事態発生時）



（教育委員会との連携） （ケア等日常観察・関係機関等との連携） （取組の分析、改善）

※重大事態が発覚した時点で、緊急水戸市立五軒小学校いじめ防止対策委員会を立ち上げて、組織的に対応する。同時に校内にサポートチームを立ち上げ、一般児童等のメンタルヘルス・ケア等を行い、全校児童の不安を解消させる。

平成 26 年 4 月 1 日 作成
平成 30 年 4 月 1 日 修正
令和 6 年 4 月 1 日 修正